



悲しみの道(中)

パレスチナ巡礼⑨

聖書に書かれているの書である。ことを神話と思つてい 新約聖書はイエス・キリストについて書か はない。聖書は歴史の 書である。確かに旧約 聖書の一部に神話的な 部分はあつたが、旧約聖 書はユダヤ民族の歴史



ゴルゴダの丘があつた所に建つ聖墳墓教会

最後の歩みを「ヴィア・ドロローサ(悲しみの道)」という。 会う。

現在のエルサレム旧市街の中の約一キロ(死 刑判決を受けたローマ 総督ピラトの官邸から

十字架の刑に処せられ たゴルゴダの丘までの 間)。十四の場所に留

まり、祈りを捧げる「十 字架の道行」について 少し詳しく触れる。

第一留 イエス、死 刑の宣告を受ける。

第二留 イエス、十 字架を担う。

第三留 イエス、は

第十留 イエス、衣

第十一留 イエス、

第十二留 イエス、

第十三留 イエス、

第十四留 イエス、

ホセマリア・エスクリバー

十字架の道行



エスクリバー司祭著「十字架の道行」

コプト教会の建物で あつたりと、いろいろ である。

とにかく狭い道路を 自分が処刑される十字 架を背負つて歩かされ たヴィア・ドロローサ。

イエスにとつても、聖 母マリアにとつても悲 しみの道であり、苦難 の道であつたことは間 違ひない。

しかし、それで終わつ たわけではなく、神は イエスを死から復活さ せられた。これこそが キリスト教信仰のポイ ントである。

帰国後、本棚にあつ た「十字架の道行」に 従つて黙想する。そこ で強く感じたのは、ヴィ

ア・ドロローサの祈り ともいえる十字架の道 行が、イエスが墓に葬

られて終わつていこ とだ。

悲しみの道、苦難の 道後に起こつたイエス の復活がなぜないので だろうか。

このことを神父に尋 ねると「確かに今まで の伝統的道行は埋葬の 十四留で終わつてい

るが、第二バチカン公会 議以降は十五留として 『イエスの復活』が加え

られた」という。 イエスの神への絶対の 信頼に依つて、神はイ エスを死から復活させ られた。復活への希望 の信仰、もし、すべて が死で終わるとすれ ば、そこには絶望しか ない。

哲学者、キルケゴー ルは「死に至る病」とは 絶望のことであると言つ たことを思い起す。

途中の各留は、ローマ・カトリック教会の小聖堂やギリシヤ正教の修道院、アルメリア、